

インテリア小物とインテリアグリーンの評価

The evaluation of interior accessories and plants

長谷川 祥子

HASEGAWA, Shoko

Abstract

The evaluation of interior accessories and plants was investigated to consider the influence which interior accessories and plants have on the degree of satisfaction to living environment. The interior accessories evaluated highly were wall clocks, and that whose evaluation was low were what someone wears, such as a bag and a hat. Although the influence by the opinion over fanciness and practicality in the evaluation to interior accessories used for the ornament and display of the room, such as an ornament, a stuffed animal and a photograph, was suggested, influence on evaluation to a clock or clothing ornaments was not detected. In the evaluation to various interior plants, there was a difference between objects. The influence by the viewpoint of evaluation was also suggested.

Keywords : interior accessory, interior plant, living environment

1. はじめに

ストレス社会といわれる現代では、生徒・学生も学校での人付き合いなどにストレスを感じている。学生は、進学を機に一人暮らしを始める事例も少なくない。住環境は、そこで過ごす時間が長いことなどから、健康増進に果たす役割が大きく、住環境への満足度を高めることによってストレスを軽減することが健康の維持・増進に有効であるとされる。

既報の調査¹⁾によって、学生は自室に自分好みのインテリア小物を置くことで、気分がポジティブになるなどと感じていることがわかった。また、思い出のこもったものやよく使うものなども置きたいと考えられる要件の一部に挙げられたが、その考えには個人差があることも示唆された。したがって、インテリア小物の個別の評価を探り、インテリア小物が居心地の良い住環境形成に及ぼす影響を明らかにすることが求められると考えられる。しかし、インテリア小物の評価やインテリア小物による影響に関する資料は乏しいのが現状である。

学生によるインテリア小物の利用について、飾るためにインテリア小物を置きたいと考える回答者は、約 7 割であったが、思い通りに置けている回答者は、1 割にも満たなかったことが報告されている²⁾。インテリア小物を置く理由としては、「自分好みの部屋にするため」、「それ自体を気に入ったから」が、主な理由に挙げられている³⁾。さらに、住宅居間のインテリアの好みと個人属性との関係を調査した研究³⁾によると、几帳面な被験者は和風に対する評価が高く、内向的な被験者は和風・ナチュラルに加え、フ

ェミニンなインテリアも好む傾向にあるなど、インテリアの好みと個人属性の間に関係があると報告されている。インテリア小物に対する評価にも個人属性が関係している可能性が考えられ、検討が必要である。

また、インテリア小物として室内で用いられる植物(インテリアグリーン)は、安らぎや癒しの効果が期待されており、居心地の良い住環境形成に寄与する可能性が示された⁴⁾。しかし、住環境におけるインテリアグリーンの役割について調査した研究は少ない。

インテリアグリーンは、インテリアショップでの扱いのほか、植物販売店でも取り扱われており、既報の調査⁴⁾によって、販売されているインテリアグリーンは、その栽培形態や容器の種類などの点で多様であることが報告されている。そして、多様な形態の小型インテリアグリーンを比較対象物に用いた評価グリッド法による面接調査によって、インテリアグリーンには、容器や培地も含めたパランスのよさが第一に求められており、インテリアの要素として、植物体のみならず、全体の印象が重要視されていることが示された。インテリアグリーンの評価に関しては、鉢植えの観葉植物に対する評価⁵⁾のほか、苔玉と鉢植えを比較検討した研究⁶⁾が見られるが、多様な外観をもつインテリアグリーンに対する個別の評価は、いまだ明らかとなっていない。

そこで、本研究では、インテリアグリーンを含むインテリア小物の配置による室内装飾が、居心地の良い住環境形成に及ぼす影響を明らかにすることを目的とし、インテリア小物およびインテリアグリーンに対する評価を探った。

2. インテリア小物の評価

2.1 研究方法

インテリア小物の評価構造を調査した評価グリッド法による面接調査の中で、比較対象物として用いた14種類のインテリア小物に対する、自室の目の触れるところに「置きたい」、「置きたくない」の6段階の評価の結果を用いて、分析した。もっとも置きたいと評価された小物を6、もっとも置きたくないと評価された小物を1と得点化した。調査は、2013年11月～2014年1月に岐阜市立女子短期大学の建築・インテリア系の学生23名を対象に行った。

比較対象物に用いたインテリア小物は、既報のアンケート調査で学生に利用されていたインテリア小物の結果を元に、14種類（ぬいぐるみ、ポスター、写真、壁掛け時計、置時計、置物、観葉植物、生花、キャンドル、アクセサリ、帽子、かばん、クッション、本・雑誌）を選定した。評価グリッド法では、比較対象物そのものの評価ではなく、例えば「ぬいぐるみ」というインテリア小物の評価を抽出するため、本や雑誌などから、室内にインテリア小物が配置された写真を集め、コラージュしたA4用紙を用いた（写真-1）。

2.2 結果および考察

(1) 各対象物の評価

各対象物の評価得点を図-1に示す。平均値をプロットで表し、標準誤差と標準偏差によるデータの散らばりを示している。

各対象物の得点をKruskal-Wallisの検定で、比較したところ、対象物間に有意な差が認められた（ $H(13)=89.6, p<.05$ ）。Scheffeの法による多重比較を行った結果、かばん、帽子と壁掛け時計、置時計、クッション、置物、写真、ぬいぐるみ、観葉植物との間、かばんとポスター、本・雑誌、キャンドルとの間、アクセサリと壁掛け時計の間に有意な差が見られた（ $p<.05$ ）。



写真-1 比較対象物に用いた写真例
（左；ぬいぐるみ、右；観葉植物）

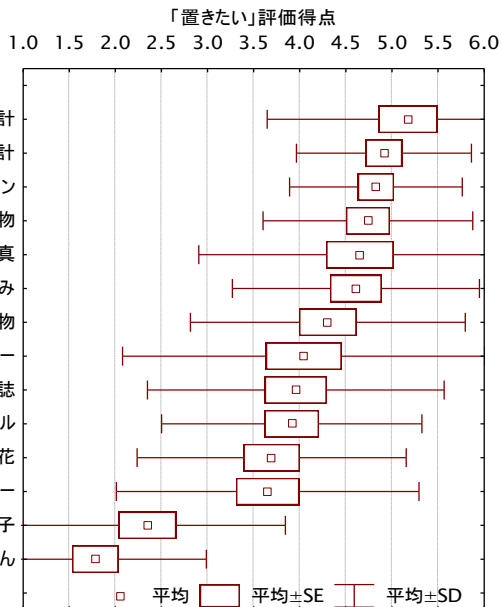


図-1 インテリア小物に対する評価得点

もっとも置きたいと評価されていたのは、壁掛け時計で、次点は置時計であった。時計は、自室に置きたい要素として認識されていた。壁掛け時計の標準偏差は1.53、置時計は0.95であったことから、壁掛け時計はもっとも置きたいと評価されているが、置時計に比べ、回答者間にばらつきがあることがわかった。時計に次いで、クッションが置きたいと評価されていた。標準偏差の値も0.94と、14種類の中でもっとも小さい値であり、回答者間でばらつきが少なく、概ね高く評価されているといえる。次いで、置物、写真、ぬいぐるみ、観葉植物と続き、飾ることを目的とした小物が置きたいとの分類（4点以上）に評価されていた。続くポスターの平均評価得点は、4点以上ではあったが、14種類の中でもっとも標準偏差（1.97）の値が大きく、回答者間でのばらつきが大きいことが示された。評価グリッド法による面接調査の中では、壁に穴を開けたくない、ポスター自体に穴を開けたくないとの意見が見られた。もっとも置きたくないと評価されたのは、かばんであり、帽子、アクセサリと続いた。身に着けるものは、自室の目の触れるところには置きたくないと考えられていることを反映した結果であるといえる。

(2) インテリア小物に求める性質による比較

アンケート調査の設問に対する回答で、インテリア小物の装飾性を求める回答者（12名：装飾派）とそうでない回答者（11名：非装飾派）の2群に回答者を分類した。その2群間で、インテリア小物に対する評価を比較した（図-2）。Mann-WhitneyのU検定で2群間を比較したところ、置物と写真およびぬいぐるみで装飾派の評価得点が非装飾派

インテリア小物とインテリアグリーンの評価

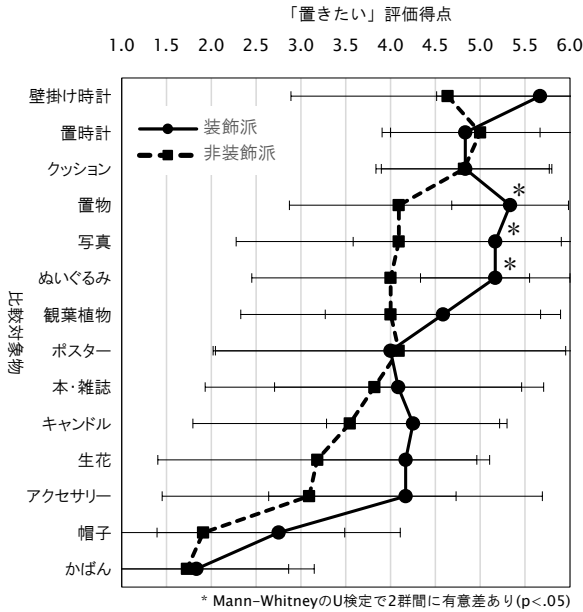


図-2 装飾派と非装飾派によるインテリア小物の評価

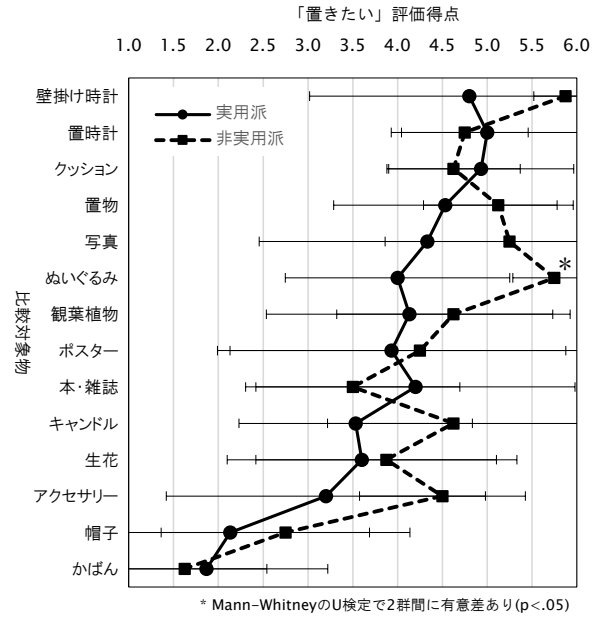


図-3 実用派と非実用派によるインテリア小物の評価

の評価得点を有意に上回った (p<.05)。装飾派では、置時計、クッションよりも、置物、写真、ぬいぐるみの評価が高く、装飾に用いる小物の評価が非装飾派に比べ、高いことがわかった。一方、非装飾派では、全体的に装飾派よりも評価が低く、置きたいと評価されるインテリア小物が少ない。また、装飾性を求めるかに係らず、時計やクッションは、自室に置きたいと考えられており、かばんや帽子は置きたくないと判断されていた。

アンケート調査の設問に対する回答で、インテリア小物の実用性を求める回答者 (15名：実用派) とそうでない回答者 (8名：非実用派) の2群に回答者を分類した。その2群間のインテリア小物に対する評価を比較した (図-3)。Mann-Whitney のU検定で2群間を比較したところ、ぬいぐるみで非実用派の評価得点を実用派の評価得点を有意に上回った (p<.05)。実用的でないぬいぐるみや写真などのインテリア小物に対する評価は、実用性を重視しない回答者で高い傾向が見られた。壁掛け時計など、実用的な要素では、2群間で有意な差は見られず、天井効果もしくは、実用性以外の因子があるものと推測された。

3. インテリアグリーンの評価

3.1 研究方法

インテリアグリーンの評価構造を調査した評価グリッド法による面接調査⁴⁾の中で、比較対象物として用いた20種類のインテリアグリーン(表-1)に対する、「好ましい」、「好ましくない」の5段階の評価の結果を用いて分析した。もっとも好ましいと評価されたインテリアグリーンを

表-1 比較対象物の写真 (文献4) より再掲)

土植え	底面	ハイドロ	セラミス	観葉寄せ
セラライト	装飾鉢	ポリマー	盆栽	ミニ盆栽
炭植え	和苔玉	観葉苔玉	動物鉢	サボテン
ミニサボ	サボ寄せ	シックサボ	装飾サボ	スイーツ

5、もっとも好ましくないと評価されたインテリアグリーンを1と得点化した。調査は、2010年6月に京都府立大学の生命環境学部・研究科、文学部、公共政策学部、農学部部に所属する18~24歳の学生27名(女性22名、男性5名)を対象に行った。

調査に使用した比較対象物は、店舗で販売されているインテリアグリーンを調査した結果⁴⁾を元に、選定し、実物を調査対象者に提示した。

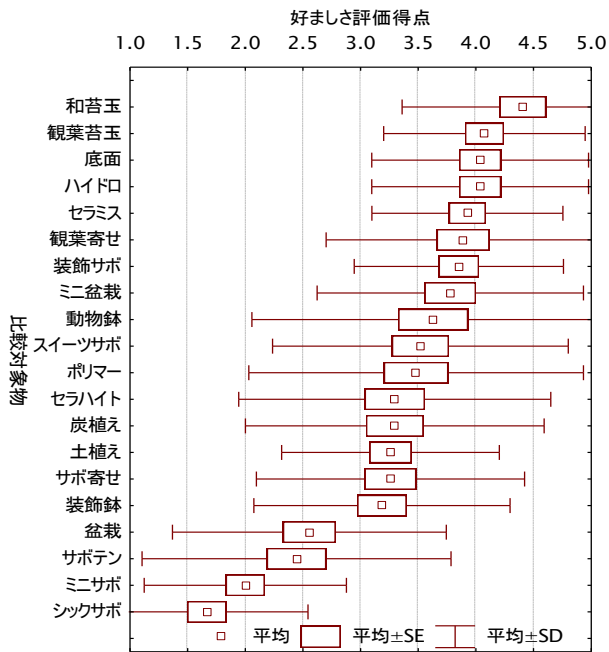


図-4 インテリアグリーンに対する評価得点

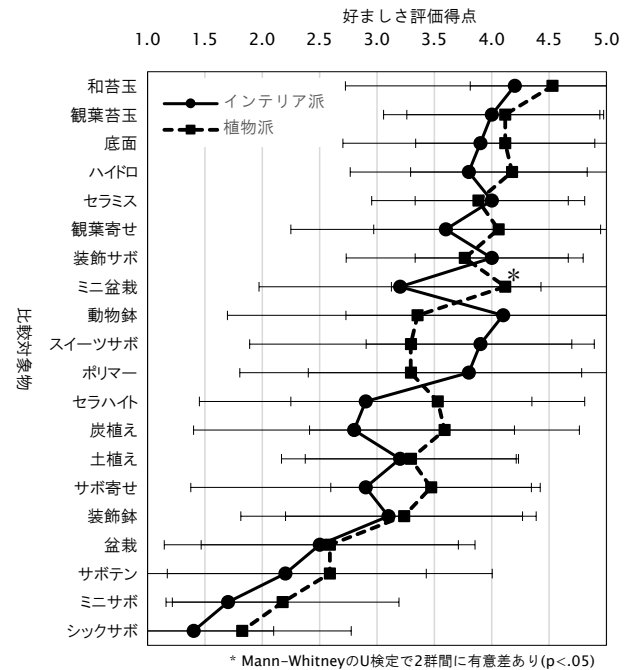


図-5 インテリア派と植物派による評価

3.2 結果および考察

(1) 各対象物の評価

各対象物の評価得点の平均値をプロットで表し、標準誤差と標準偏差によるデータの散らばりを示した (図-4)。

各対象物の得点を Kruskal-Wallis の検定で、比較したところ、対象物間に有意な差が認められた ($H(19)=147.3$, $p<.05$)。Scheffe の法による多重比較を行った結果、和苔玉とサボテン、ミニサボ、シックサボとの間、観葉苔玉、ハイドロ、底面とミニサボ、シックサボとの間、セラミス、観葉寄せ、装飾サボ、ミニ盆栽とシックサボとの間に有意差が見られた ($p<.05$)。

もっとも好ましいとされたインテリアグリーンは、和苔玉であった。次いで、観葉苔玉で、苔玉に対する評価が高いことが伺える。一方、シックサボやミニサボ、サボテンの評価は、和苔玉に比べ有意に低かった。サボテン類に対する評価が低いと考えられるが、装飾的な要素を加えた装飾サボやスイーツサボあるいは寄せ植えにしたサボ寄せは、中間的な評価を得ており、装飾性を高めたサボテン類の販売は、好ましく受け入れられていると推測された。

(2) インテリアグリーンに求める性質による比較

評価グリッド法による面接調査⁴⁾の中で、「インテリアとして利用できる」や「オブジェクトとして置きたい」等と回答した回答者 (10 名) をインテリア派とし、それらに類する回答がなかった回答者 (17 名) を植物派とし、インテリアグリーンに対する評価を比較した (図-5)。Mann-Whitney の U 検定で 2 群間を比較したところ、ミニ盆栽で

植物派の評価得点がインテリア派の評価得点を有意に上回った ($p<.05$)。植物派は、和苔玉、ハイドロ、観葉苔玉、底面、ミニ盆栽、観葉寄せの評価が高かった一方、インテリア派は、和苔玉に次いで、動物鉢の評価が高く、観葉苔玉、セラミス、装飾サボと続いた。双方のグループで和苔玉は、高い評価を得ており、植物として、インテリアの要素として魅力があると判断されたと考えられる。

4. まとめ

今回の分析で、インテリア小物およびインテリアグリーンの好ましさの個別の評価が示された。その好ましさの評価を構成する因子については、今後検討する必要がある。また、単体の評価だけでなく、組合せの検討も望まれる。

参考文献

- 1) 長谷川祥子 (2014) : 学生によるインテリア小物に対する好ましさの評価 : 日本建築学会大会学術講演梗概集, 1-2
- 2) 長谷川祥子・下村孝 (2014) : 学生の自室におけるインテリア小物の利用実態と利用する学生の意識 : 岐阜市立女子短期大学研究紀要第 63 輯, 89-96
- 3) 槇究・山口愛美・佐藤仁人 (2012) : 住宅居間インテリアの好みと個人属性その 2 : 日本建築学会大会学術講演梗概集, 19-20
- 4) 長谷川祥子・下村孝 (2011) : 単身で居住する大学生による小型室内植物の印象と効用および求められる要件の評価 : ランドスケープ研究 74(5), 759-764
- 5) 浅海英記・仁科弘重・難波亮子・増井典良・橋本康 (1995) : 観葉植物の印象の評価および観葉植物を配置した室内の居住者心理の SD 法による評価 : 植物工場学会誌 7(1), 34-45
- 6) 長谷川祥子・下村孝 (2011) : 植物の形状と大きさおよび設置距離が室内植物の印象評価に及ぼす影響 : ランドスケープ研究 (オンライン論文集) 4, 24-32

(提出日 平成 27 年 1 月 6 日)